

<p>I. 新約において啓示されている、信者と関係のあるすべての要求、特に、神の福音を告げ知らせるという要求のために、私たちは、手順を経た三一の神の分与を通して、からだの神聖な供給を受ける必要があります。</p>		
<p>II. 私たちは見る必要がありすが、私たちが福音において神に仕えることは、神を礼拝することです。新約において、神に仕えることは、実は神を礼拝することと同じです：</p>	<p>A. パウロは言いますが、テサロニケの信者たちは、「偶像から神に向きを変えて、生けるまことの神に仕えるようになった」のです：</p>	<p>1. 私たちの日常生活のあらゆる面において、神は私たちに対して、また私たちの中で、生きていなければなりません。私たちの考えや動機などのような小さな事柄においてでさえ、神が私たちが管理し、導き、矯正し、調整するという事実は、彼が生きていることの証拠です。</p> <p>2. 私たちは、生ける神の管理、導き、矯正の下で生活して、私たちが広める良きおとずれの模範となります。</p>
	<p>B. 私たちはキリストにある信者として、霊の中で生活して、私たちの礼拝し仕えている神が、私たちの生活の詳細の中で生きていることを、証ししなければなりません。私たちがある事を行なわず、あるいは語らない理由は、神が私たちの中に生きているからです。</p>	
<p>III. パウロは、自分は「神の福音へと選び分けられた(ローマ 1:1)」と言います。また彼は、「私が私の霊の中で、御子の福音において仕えている神が、私の証人なのです(1:9)」と宣言しています：</p>	<p>A. ローマ第1章9節の「仕えている」というギリシャ語は、「礼拝の中で仕える」という意味であり、マタイ第4章10節、IIテモテ第1章3節、ピリピ第3章3節、ルカ第2章37節でも用いられています。パウロは自分の福音の宣べ伝えを、神に対する礼拝と奉仕であると考え、単なる働きであるとは考えませんでした。</p>	
	<p>B. 私たちは神に仕えに来るとき、あるいは神を礼拝しに来るとき、血できよめられた良心を必要とします。私たちの汚れた良心は、きよめられる必要があります。それは私たちが、生きた方法で神に仕えるためです。<u>ヘブル 9:14</u> まして、キリストが永遠の霊を通して、傷のないご自身を神にささげられたその血は、なおさら私たちの良心をきよめて、死んだわざから離れさせ、生ける神に仕えるようにさせないでしょうか？</p>	
	<p>C. 福音において神に仕えることは、すべてを含むキリストの中で彼に仕えることです。なぜなら、福音はキリストご自身であるからです。</p>	
	<p>D. 私たちは神の御子の福音を宣べ伝えるために、私たちの再生された霊の中にいなければなりません。ローマ人への手紙の中でパウロは強調していますが、私たちであるすべて、私たちの持っているすべて、私たちが神に対して行なうすべては、私たちの霊の中になければなりません。</p>	
	<p>E. パウロが神に仕えたのは、彼の再生された霊の中でであり、内住のキリスト、すなわち、命を与える霊によってであって、彼の魂の中ではなく、魂の力と能力によってではありませんでした。これが、彼の福音の宣べ伝えにおける第一に重要な事です。</p>	
	<p>F. パウロは神の福音へと選び分けられましたが、この神の福音はローマ人への手紙の主題です。ローマ人への手紙は、第五の福音書と考えてもよいでしょう：</p>	<p>1. 最初の四つの福音書は、肉体と成ったキリスト、肉体におけるキリストが、彼の弟子たちの間で生活したことに関するものです。ローマ人への手紙における福音は、復活したキリストがその霊として、彼の弟子たちの内側で生活したことに関するものです。</p> <p>2. 私たちは、第五の福音書、すなわち、ローマ人への手紙が、私たちの内側に主観的な救い主を啓示して、キリストの主観的な福音とすることを必要とします。</p> <p>3. ローマ人への手紙の中心的なメッセージとは、神が願っておられるのは、肉の中にある罪人たちを、霊の中にある神の子たちへと造り変えて、キリストのからだを構成し、諸地方召会として表現することである、ということです。</p> <p>4. 私たちすべては、ローマ人への手紙の啓示にしたがって、神の福音の祭司として機能する必要があります。私たちは、福音の要素と詳細を学ぶ必要があります。私たちは、福音の完全な内容を経験する必要があります。私たちは、私たちの霊を活用して、どのようにして福音を供給するかを学ぶ必要があります。</p>
<p>A. 霊を用いて霊なる神に触れることは、生ける水を飲むことです。そして、生ける水を飲むことは、神に対して真の礼拝をささげることです。</p>		
<p>B. 神はそのひとり子を賜ったほどに、世の人を愛されました。それは罪人が彼の中へと信じて、流れる三一の神としての彼から飲み、永遠の命の総合計、すなわち、新エルサレムとなるためです。</p>		
<p>C. 予表によれば、神は、ご自身の住まいのために彼が選ぶ場所で、ささげ物をもって、礼拝されるべきです。神がご自身の住まいのために選ぶ場所は、人の霊を予表します。ささげ物は、キリストを予表します。</p>		
<p>IV. 「神は霊であるから、彼を礼拝する者は、霊と真実の中で礼拝しなければならぬ(ヨハネ 4:24)」：</p>	<p>D. 神聖な実際はキリストであり、彼は、神を礼拝するための旧約のすべてのささげ物の実際です。彼はまた、生ける水(命を与える霊)の源泉であり、彼の信者たちがあずかり、飲むものであり、彼らの内側の実際となります。</p>	
	<p>E. 私たちの霊の中で、キリストをささげ物の神聖な実際として享受することによって、彼は私たちの真実と誠実になり、神に対する真の礼拝となります。</p>	

<p>V. 「私たちこそ割礼の者であり、神の霊によって仕え、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みとしていないからです(ピリピ 3:3)」:</p>	<p>A. 肉とは、私たちの天然の存在において、私たちであるすべてと私たちが持っているすべてとを指します。何であれ天然であるものは、善であろうと悪であろうと、肉です。</p> <p>B. 私たちはキリストにある信者として、私たちの天然から生み出されたどんなものにも信頼すべきではありません。なぜなら、私たちの天然から生み出されたものすべては、肉の一部分であるからです。</p> <p>C. 私たちは再生されましたが、依然として自分の墮落した性質の中に生き続け、私たちが肉の中で行なう事を誇り続け、自分の天然の資格を頼みとし続けるかもしれません。ですから、私たちがピリピ第3章のこれらの節によって深く、また個人的に触れられるのは、重要なことです。</p> <p>D. 私たちは、私たちの性質、私たちの行ない、私たちの肉に対する信頼に関して、主の光によって照らされる必要があります。私たちは主によって照らされて、私たちが依然としてあまりにも肉によって生きており、また自分の行ないや資格を誇っていることを見る必要があります。</p> <p>E. ある日、この事に関して光が私たちを照らすとき、私たちは主の御前にひれ伏して、自分の性質がどんなに汚れているかを認めるでしょう。それから私たちは、自分の墮落した性質によって行なうあらゆる事を罪定めするでしょう。神の目には、墮落した性質において行なわれる事は何であれ、邪悪であり、罪定めに値すべきであることを、私たちは見るでしょう。</p> <p>F. かつては、私たちは自分の行ないや資格を誇りました。しかし、時がやって来ると、私たちは肉をその資格と共に罪定めするでしょう。その時、私たちはキリストだけを誇り、自分の中には誇るべき立場が全くないことを認識するでしょう。</p> <p>G. 私たちが神によって照らされたとき、はじめて私たちは自分の天然の資格や能力や知力に信頼しないと、真に言うことができます。その時はじめて私たちは、自分の信頼は完全に主にあると証しすることができます。私たちはこのように照らされた後、真に私たちの霊の中で、その霊によって、神に仕え、神を礼拝するようになります。</p>
<p>VI. 私たちは神の御子の福音において神に仕えるために、自分が肉の中にある人であり、死と葬りにしか値しないことを見る必要があります。これは、主の模範に従って、すべての義を成就し、時代の務めの中に入ることです:</p>	<p>A. イエスがバプテスマされた基礎は、彼がご自身を、彼の人性にしたがって、一人の人、特にイスラエル人、「肉体の中にある」人であると考えたことです。彼は、「罪の肉の様にある」だけで、「罪がない」方でしたが、彼は「肉体の中にあり」ました。この肉体には善はなく、死と葬りに値するだけです。</p> <p>B. この事実に基づき、彼が神のためにご自身の務めを開始したとき、進んでバプテスマのヨハネによってバプテスマされました。そして、彼はご自身の人性によれば、神のしもべとなる何の資格もないことを認識していました。</p> <p>C. 彼は肉体の中にある人として、死の水の中で葬られる死んだ人となって、神の義にしたがって神の新約の要求を成就する必要がありました。そして彼はそれを進んで行ない、これを神の義を成就することであると考えました。</p> <p>D. これが示していることは、私たちは神の福音の奉仕において、私たちの天然の命のもの、私たちの肉のものを、神の務めの中にもたらしべきではないということです。</p> <p>E. 私たちはみな、私たちの生活と働きにおいて宣言すべきです、「私は、肉の中にある人であり、死と葬りにしか値しません。ですから、私は自分自身を終結させ、十字架につけ、葬ることを願います」。</p>
<p>VII. 福音における主のための私たちの働きと労苦は、私たちの天然の命と能力によるのではなく、主の復活の命と力によります。復活が、神に対する私たちの奉仕の永遠の原則です:</p>	<p>A. 命を与える霊は、三一の神の実際、復活の実際、キリストのからだの実際です。</p> <p>B. 復活の意味は、あらゆる事が神から出たものであって、私たちから出たものではないこと、神だけができ、私たちにはできないこと、あらゆる事は神がなさるのであって、私たち自身がするのではないということです。</p> <p>C. 復活を認識している人はすべて、自分自身に対して絶望的な人です。彼らは、自分にはできないことを知っています。死からのすべてのものは私たちに属し、命からのすべてのものは主に属します(everything that is of death belongs to us, and everything that is of life belongs to the Lord.)。</p> <p>D. 私たちは、自分が無であり、何も持っておらず、何もできないことを認めなければなりません。私たちは、自分自身が終わらせられなければならない、そうしてはじめて自分が全く何の役にも立たないことを確信します。</p> <p>E. 命を与える霊としての復活のキリストは、私たちの中に生きており、それによって私たちは、自分自身の中では決してできなかった事ができるようになります。</p> <p>F. 私たちが天然の命によってではなく、私たちの内側の神聖な命によって生きるとき、私たちは復活の中にいます。この結果は、神の福音の目標としてのキリストのからだの実際です。</p>

## 経験(ビジネス・ライフ編)

- ① 私たちは日常生活によって、神が生きていることを証明します。…私たちの現在の生活は、私たちが仕える神が生きていることの証しです。彼は私たちの中に生きており、私たちを管理し、導き、対処します。彼は私たちを放しません。そうではなく、多くの事柄において彼は私たちを矯正し、調整します。私たちの考えや動機のような小さな事柄においてさえ、神が私たちを管理し、導くという事実は、彼が生きていることの証拠です。私たちは、生ける神の管理、導き、矯正の下で生活しています。私たちはキリストにある信者として生活して、私たちが礼拝し仕える神が、私たちの生活の詳細の中で生きているということを証しなければなりません。

ある人は神経質なので、業務遂行においていつも自信がなくびくびくしています。また別の人は、マイペースな人で変化に気が付きません。しかしながら、クリスチャンであるあなたは、どのような性格の人であるかにかかわらず、主によって管理され、導かれ、調整されることを経験し、主があなたの中で生きていることを証しできなければなりません。したがって、あなたが霊を活用し、心を主に開き、主の御名を呼ばなければならないのは、集会や奉仕の時だけでなく、ビジネス・ライフにおいても全く同じです。会議の時などに内側で主の御名を呼んでください。そして思いを霊に付けて主と共に業務を行うことで、主はあなたに「今すぐに決定するように」、「もっと状況を確認するように」、「言い過ぎないように」、「大胆になるように」など、あなたに必要な調整、矯正を語りかけられます。あなたがこの語りかけに従うなら、あなたの内側に主が生きておられることを証しします。あなたは日常生活、特にビジネス・ライフで、キリストがあなたの中に生きておられることを証しする生活を持たなければなりません。アーメン!

- ② 私たちは再生されましたが、依然として自分の墮落した性質の中に生き続け、私たちが肉の中で行なう事を誇り続け、自分の天然の資格を頼みとし続けるかもしれません。…私たちは、私たちの性質、私たちの行ない、私たちの肉に対する信頼に関して、主の光によって照らされる必要があります。私たちは主によって照らされて、再生されて、神聖な命と性質を持つ神の子供たちとなったのに、私たちが依然としてあまりにも肉の中に生きていることを告白するでしょう。ある日、この事に関して光があなたがたを照らすとき、あなたは主の御前にひれ伏して、自分の性質がどんなに汚れているかを認めるでしょう。それからあなたは、自分の墮落した性質によって行なうあらゆる事を罪定めするでしょう。神の目には、墮落した性質において行なわれる事は何であれ、邪悪であり、罪定めに値すべきであることを、私たちは見るでしょう。

あなたはどれだけ高い教育を受け、優れた学位や資格を得たとしても、決してそれらに頼ってはいけません。また、救われた後の主の導きによる様々な経験を持ったとしても、それらを誇ってもいけません。それらを誇ると、それ

らに頼るようになるからです。このことにおいて、あなたは主の光で内側深くを照らしていただく必要があります。あなたは、あなたが得た学歴や会社における地位に頼ってはいけません。さらに、過去の霊的な経験に頼ってもいけません。絶えず主に開き、主を享受し、先入観を下ろし、主の現在の語りかけに聞くべきです。イスラエルの民はヨシュアの導きの下で、主の御声に聞き従い、エリコで勝利を得ましたが、その直後アイで敗北しました。それは直前のエリコでの勝利の経験に頼り、主の語りかけに聞かず、主に頼らず、天然の力によって、迷信的にアイに進撃したからです。

あなたは霊が再生されていても、天然の命に従って生きている可能性が大いにあります。主の照らしの下で、罪のものが対処されるべきであるだけでなく、天然のもの、主に頼らないあなたの性質と行いはすべて、神によって罪定めされていることを認識する必要があります。あなたは次のように祈ってください、「主イエスよ、あなたに頼らないすべてのものは肉です。私は栄光の主の輝きを見るとき、自分の肉が仮に良くても何の価値もないことを知ることができます。私の心の深み、心の隅々を光で照らしてください。多くの時、無意識のうちに高ぶってしまい、肉に頼っている自分を見出します。主よ、あわれんでください。栄光のキリストが私の内側で現れ、私を照らし、あなたご自身に私を引き寄せてください。それは私がもはや肉に信頼せず、主を愛し、主を慕い、主に信頼するためです。アーメン」。

- ③ 復活の意味は、あらゆる事が神から出たものであって、私たちから出たものではないということです。その意味は、神だけができ、私たちにできないということです。復活の意味は、あらゆる事は神がなさるのであって、私たち自身ができるのではないということです。自分自身を高く考える者や、自分自身について誤った判断を持っている者はみな、復活が何であるかを決して認識したことがありません。…もし人が、自分にはできる、自分には何か行なうことができる、自分は役に立つなどと考え続けるなら、その人は復活を認識していないのです。彼は復活の教理や、復活の理由や、復活の結果を認識しているかもしれませんが、復活を認識していません。復活を認識している人はすべて、自分自身に対して絶望的な人です。彼らは、自分にはできないことを知っています。天然の力が残っている限り、復活の力が現される立場がありません。

あなたは自分自身を、「英語あるいは中国語ができるのですばらしい」、「会社の業績が優れているので大した者である」などと、少しでも考えてはいけません。そのような考えはあなたが復活を認識していないことを示します。主は死んでよみがえり、命を与える霊とされました。復活を認識するため、あなたは絶えず霊に戻り、霊を活用し、命を与える霊に触れてください。そして霊の中で仕事をすることによって、復活を証しするビジネス・パーソンになってください。

補充 305

1. 主よ、うるわしさのゆえ  
わがころをひらく、  
いま、宗教よりとかれて  
ただながうちに住む、  
主の栄光を見上げつつ  
かがやきにみたされ、  
わがうちに浸透ませ  
なれとわが霊はいち。
2. 主よ、すみわたるそらに  
ひとの子、御座に見る  
ほのおもて焼き尽くせ  
主のみ、かがやくまで  
なれの栄光を見るとき  
自己愛、恥じて失せぬ  
なが名のあまさ、知って  
あいと 賛美ささげる。

1. 主耶穌，你美麗奪了我心，  
我全心向你完全敞開；  
釋放我，脫離宗教的義務，  
只讓我永遠享你同在。  
當我在此注視你的榮耀，  
我的心充滿了你榮耀；  
浸透我，主，我今懇切求禱，  
以你靈與我靈永相調。
2. 光照者—我的天何等明亮，  
我看見人子在寶座上；  
聖別者，以神的火焰燒我，  
直等我因你灼灼發亮！  
主，當我初次 看見你榮耀，  
自愛與誇耀同歸羞慚；  
今我心湧出愛戴與頌讚，  
品嚐你名裡一切肥甘。

1159

1. Jesus Lord, I'm captured by Thy beauty,  
All my heart to Thee I open wide;  
Now set free from all religious duty,  
Only let me in Thyself abide.  
As I'm gazing here upon Thy glory,  
Fill my heart with radiancy divine;  
Saturate me, Lord, I now implore Thee,  
Mingle now Thy Spirit, Lord, with mine.
2. Shining One — how clear the sky above me!  
Son of Man, I see Thee on the throne!  
Holy One, the flames of God consume me,  
Till my being glows with Thee alone.  
Lord, when first I saw Thee in Thy splendor,  
All self-love and glory sank in shame;  
Now my heart its love and praises render,  
Tasting all the sweetness of Thy name.

516 試練の中での慰め — 主に信頼する

1. 主に信らいするは 何とあまいこと、  
やくそくのうえに われ安そくする。  
(復)イエス、イエス、信頼する、その都度たしか；  
イエス、イエス、とうといイエス、主は生けるかみ。
  2. イエスにしん頼して、とうとい血を信じる；  
いやし、きよめる血、単純にしんじる。
  3. イエスにしん頼する、つみ、自己を解く；  
歡喜、安そく、いのち、めぐみを受ける。
1. 信靠耶穌何其甘甜，抓祂话语作把握，安息在祂应许上面，  
只知主曾如此说。  
(副) 耶穌、耶穌，何等可靠，我曾试祂多少次；耶穌、  
耶穌，我的至宝，祂是活神不误事。
  2. 信靠耶穌，何其甘甜，信祂宝血能洗净；信心简单，血有效  
效验，疾病医治，罪洗清。
  3. 信靠耶穌，真是甘甜，救我远离罪与己；从祂接受无限恩  
典：生命、喜乐和安息。

568

1. 'Tis so sweet to trust in Jesus,  
Just to take Him at His word;  
Just to rest upon His promise;  
Just to know, Thus saith the Lord.  
Jesus, Jesus, how I trust Him,  
How I've proved Him o'er and o'er,  
Jesus, Jesus, Precious Jesus!  
O for grace to trust Him more.
2. O how sweet to trust in Jesus,  
Just to trust His cleansing blood;  
Just in simple faith to plunge me,  
'Neath the healing, cleansing flood.
3. Yes, 'tis sweet to trust in Jesus,  
Just from sin and self to cease;  
Just from Jesus simply taking  
Life, and rest, and joy, and peace.